

國學院大學学術情報リポジトリ

社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会(1907年)とフランス社会党第3回リモージュ大会(1906年)・第4回ナンシー大会(1907年)の歴史的考察(2・完) :

第1次世界大戦前夜の反戦平和問題とジャン・ジョレー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学法学会 公開日: 2024-02-29 キーワード (Ja): ジャン・ジョレー キーワード (En): 作成者: 横山, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000401

社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会（1907年）とフランス社会党第3回リモージュ大会（1906年）・第4回ナンシー大会（1907年）の歴史的考察（2・完）

——第1次世界大戦前夜の反戦平和問題と
ジャン・ジョレース——

横 山 謙 一

第4章 1907年第2インターナショナル・シュトゥットガルト大会の歴史的意義

はじめに

フランス社会党 SFIO の代表はナンシー大会で再度可決された「リモージュ提案」を手にしてナンシー大会の直後に開催されたインターナショナル・シュトゥットガルト大会の急ぎ駆けつけた。ジョレースとヴァイアンはなんとしてもドイツ社会民主党 SPD を説き伏せて「リモージュ提案」か、もしくはそれに沿った趣旨の提案に賛同してもらうことに懸命であった。

シュトゥットガルト大会は1864年に第1インターナショナルが樹立されて以来、1870年の「マンハイム大会」などいく度かの試みにもかかわらず1度たりとも開催されることがなかったドイツ国内で開催された最初のインターナショナル大会となった。第2インターナショナル最大の党であることを誇

っていたドイツ社会民主党 SPD は、威信にかけて何としてもこの大会を成功させることに勢力を傾注した。それゆえこの大会は緻密に計画された通りに見事に準備され、運営され、波瀾もなく成功裏に終わることができた。大会の討議資料は事前に配布され、大会後にぬかりなく議事録と資料集が編纂された。しかしこの大会ではドイツとフランスの党は戦争を阻止する手段についての戦術と手段について激しい議論が交わされ、積極的な行動を提起するフランス社会党 SFIO に対し、待機主義的で消極的姿勢に終始したドイツ社会民主党 SPD は国際的な評価を多分に下げ、フランス社会党 SFIO の国際的な威信が高まった⁽⁵⁸⁾。そして両者の勢力が均衡する時代に入る。

第1節 第2インターナショナル・シュトゥットガルト大会の経緯

第7回社会主義インターナショナル大会はドイツ南西部の工業都市シュトゥットガルトで開催される。おそらく首都ベルリンでの開催は政府の許可が下りる可能性がなかったので、やむなく伝統的にドイツ社会民主党 SPD の牙城であった当時のヴュルテンベルク州の州都シュトゥットガルトでドイツにおける最初のインターナショナル大会は開催されることになった。地元シュトゥットガルトの社会民主党組織と国際社会主義事務局 BSI が大会の組織化を担当した。

大会の開会式に先立って大会の組織化に当たっていた国際社会主義事務局 BSI 全体会議 Réunion plénière が8月16日に、翌日には列国社会主義議員委

(58) HAUPT, Georges ; *Le congrès manqué. op. cit.*, p. 27

(59) 既にこの大会直前の国際社会主義事務局 BSI 全体会議に先立って1906年11月10日にシュトゥットガルト大会準備のための国際社会主義事務局 BSI 第1回目会議が開かれ、招集状の内容について決定し最初の招集状を各国支部に送った。また議事日程として事務局執行委員会が提案する諸問題について議論した。この段階では1. 国際社会主義事務局 BSI と列国社会主義議員委員会 Commission Socialiste Interparlementaire の規約と決議の批准 L'Approbation des statuts et des résolutions du Bureau et de la Commission Interparlementaire、2. 植民地問題 La Question coloniale、3. 移入民と移出民 L'Émigration et l'Immigration が最初に決められ、この会議で4. 5. の問題 (4. 軍国主義と国際的諸紛争、5. 党と労働組合の諸関係) が追加された。しかし本会議で議論され

員会 Commission Socialiste Interparlementaire⁽⁶⁰⁾ の会議 conférence がひらかれた。翌18日11時からは開会式が開催され、同日午後4時から人民集会、8時から大コンサートの集いが予定されていた。

8月17日の列国社会主義議員委員会会議にはジンガー SINGER、フォルマル VOLLMAR などドイツの議員 6 人、イギリスはマクドナルド MAC DONALD 1 名、オーストリアはレンナー RENNER、ヴィクトル・アドラー-Victor ADLER (父) など23人、ベルギーがヴァンデルヴェルド、フルモン FURMONT など 6 人、ブルガリアとデンマークが 1 人、フランスがヴァイアン、ゲード、ジョレースなど11人、オランダからはファン コルなど 2 名、イタリアはコスタ COSTA、フェリ FERRI など 3 名、スウェーデンからは 4 人の議員が参加した。加えてロシアからは政府によって解散されて議員資格を奪われた第 2 回ドゥーマ (議会) のマンデルベルク MANDELBERG 前議員の参加が特別に認められた。議長はヴァンデルヴェルドが務め、マンデルベルクが提出したドゥーマ (議会) の解散と議員の逮捕に抗議する声明 rapport が採択された。この会議は次に列国社会主義議員委員会の規約を可決し、ベルギーのトルールストラ TROELSTRA が意見書

る女性参政権の問題はこの時点では提案されていなかった。1907年6月9日にはブリュッセルの人民会館 Maison du Peuple でドイツ社会民主党 SPD のペーベルとジンガー、フランス社会党 SFIO のジョレース、ヴァイアン、シャルル・ロンゲなど11か国の12党 (ロシアのみ社会革命党と社会民主労働党の2党) と国際社会主義事務局書記ユイスマンス参加して大会準備のための第 2 回会議が開催され、大会の議事日程を作成している。VIIe Congrès Socialiste International tenu à Stuttgart du 16 au 26 août 1907. *Compte rendu analytique publié par le Secrétariat du Bureau Socialiste International*. Bruxelles. Imprimerie-Lithographie Veuve Désiré BRISMÉE. 1908. pp. 1-2

(60) 列国社会主義議員委員会 Commission Socialiste Interparlementaire は、1896年のインターナショナル・ロンドン大会でこの委員会結成を採択し、各国議会での社会党議員の作業をする目的で設立された。4年後のバリ大会で国際社会主義事務局とともに結成され、事務局の付設機関とされた。1904年のアムステルダム大会では臨時的に事務局はオランダに置かれることとされた。最初の会議は1906年にロンドンで開催されたが、その際に国際社会主義事務局と列国社会主義議員委員会の併合が決められた (以上についてはシュトゥットガルト大会での列国社会主義議員委員会議長ヴァンデルヴェルドの発言による)。Ibid., pp. 9-10

mémoire を報告した。この報告はインターナショナル加盟の各国社会主義運動の現状と将来についての見解と評価を述べたもので、発展を遂げた各国での議会内の社会党の労働者階級の切実な要求を実現する活動が不毛なもので失望を買っていることなどを長々と述べた客観的であり批判的ではあるが第三者的評論のような内容で、参加者の関心を引いた様子がなかったことが終了後の議論からも読み取れる。⁽⁶¹⁾

大会の開会式は同月18日の午前11時から「リーダーハレ (歌曲ホール) Liederhalle」大公会堂で行われた。開会式会場にはマルクスとラサールの胸像がすえられ、いたるところ花と赤旗で飾られた。テーブルごとに労働者代表の国名が記されていた。大会への各国代表の座席は1000人分確保されていた。数百人を収容できる傍聴席は国内地方組織のメンバーが席をしめた。11時ちょうどに国際社会主義事務局の構成員が演壇上の席に座った。大会が始まると混声のコーラスが鳴り響いた。ルターの聖歌メロディーで労働運動の活動家であるヤコブ・アウドルフが作詞した歌が合唱された。ヴァンデルヴェルドの短い開会の挨拶の後で、主権国の党を代表してベーベルが参加した各国代表への歓迎の挨拶を行った。⁽⁶²⁾ 演説でまずなぜこれまでドイツでインターナショナル大会が開かれなかったかを説明して、ドイツ政府の反ドイツ社会民主党 SPD の姿勢を批判した。またアムステルダム大会以後にフランスの党の統一が実現し、その後の総選挙で37議席から54議席に増加させたこと、オーストリアやフィンランドをはじめ各国で選挙に勝利し特にオーストリア社会民主党は87議席を獲得して第2インターナショナル傘下最多の議席をもつ党となったことを報告した。⁽⁶³⁾ しかしベーベルはしきりにこの年の1月の帝国議会総選挙で79議席を43議席に半減させたことを残念がった。この選挙での敗北にドイツの党がいかに衝撃を受けたかをうかがい知ることが出来る。この敗北の影響が、反軍国主義をテーマとした第1セクションの議論に

(61) *Ibid.*, pp. 24-46

(62) *Ibid.*, pp. 72-73

(63) *Ibid.*, p. 77

も影響を与える。

開会式が開かれた18日の午後4時半からは、市内の郊外カンシュタット Cannstatt にある民衆祭典広場 Volksfestplatz で60,000人の大集会が開かれた。市の政治組織や労働組合から動員された人々が家族とともに旗を掲げて参集した。広場には6つの演壇が設置された。メインの集会場である第1演壇ではジンガーが議長を務めジョレースなどが発言する。ジョレースの通訳はカウツキーが務めた。⁽⁶⁴⁾この催しは各国社会党の現況を報告する集会となった。夜8時半からは大コンサートが行われ、大会を盛り上げた。⁽⁶⁵⁾

大会の本会議に入るのは8月19日からで、同日の9時から委任状審査を行い、11時からは各分科会（委員会）を開催し、各分科会の決議案が採択され、報告者を選んだ後に、この日から毎日6回にわたって開かれる全体会議で審議されることが決められた。この全体会議に先立ち国際社会主義事務局 BSI の会議が開催される。本会議は10時から13時と15時から18時か19時までの2回開かれる。全体会議は8月24日まで6回開催された。全体会議の会議場は開会式が開かれた「リーダーハレ（歌曲ホール）」大公会堂においてであった。

「軍国主義と国際紛争 Le militarisme et les conflits internationaux」と題されたこの大会の第1分科会（委員会）の第1回会議は8月19日月曜日に「コンサートホール」で開催された。この分科会（委員会）の他に4つの分科会（委員会）が開かれ、各分科会（委員会）での決議案が採択された順に全体会議に提出された。8月24日まで合計6回開催された全体会議において分科会（委員会）で選ばれた報告者が報告を行った後で、審議の後に採決が行われた。

衆目を集めたこの大会の第1分科会（委員会）には4つの決議案が提出さ

(64) その他、第2の演壇ではクララ・ツェトキンが議長を務め、ヴァンデルヴェルドのフランス語の演説をローザ・ルクセンブルクがドイツ語に通訳をした。古参活動家のための第3の演壇ではドイツ留学経験があるヴァイアンはドイツ語で演説を行い、イギリスのハインドマンがこれにならった。Ibid., pp. 91-95

(65) Ibid., p. 3

れた。

「ゲード決議案」(フランス社会党 SFIO 第4回ナンシー大会に提案された「ドルドーニュ県連合提案」と同じ文面) もエルヴェ決議案(フランス SFIO 社会党第3回リモージュ大会と第4回ナンシー大会に提案された「ヨヌ県連合提案」と同じ文面である) もフランスの党大会で否決されたフランスの党内でさえ少数派の意見であったので、国際社会主義事務局のヴァンデルヴェルドは第1分科会(委員会)でこれら2つの決議を最初から排除して審議を始めようとしたが、ベーベルの反対にあってこれを取り下げたので、「ベーベル決議」、「ヴァイアン-ジョレース決議」、「ゲード決議」、「エルヴェ決議」の4決議案をめぐって分科会(委員会)で審議・討論が開始される。

しかし事実上、焦点はドイツ社会民主党 SPD のベーベル決議案とフランス社会党 SFIO の「ヴァイアン-ジョレース決議」(ナンシー大会では「リモージュ提案」と呼ばれた決議案)の2つの決議案に絞られ、両案の妥協を模索するまで大会で議論が展開される。

「ベーベル決議」の文面は以下の通りである。

「資本主義経済秩序に基礎を置く国家間の戦争は、一般的にそれらの国々の世界市場をめぐる敵対的競争の結果である。なぜなら各国は自国の販路の利用を確保しようとするだけでなく、新しい市場を獲得しようとし、その政策では海外諸国民の隷属化と彼らの領土の略奪が主要な役割を果たしているからである。

戦争は一国民の他国民に対する偏見によって助長され、その偏見は文明諸国民において支配階級の利益のために系統的に培われる。

戦争はそれゆえに資本主義の本質であり、資本主義制度が廃棄される時、軍事技術の発達によって人員と金銭の犠牲が膨大化し、軍備によって引き起こされる反乱がこの制度を放棄するように諸国民をおいやる時にしか止むことはない。

真っ先に戦闘要員を徴募され、物質的犠牲を主として被る労働者階級はと

りわけ戦争の当然の反対者である。なぜなら戦争は彼らが求める目的、すなわち社会主義的理念に基礎を置き現実に諸国民の連帯に導くように定められた新しい経済秩序の創造しようとする目的とは相容れないからである。

すべての労働者とりわけ彼らの議会への代表者が、そのブルジョア社会の階級的な性格と諸国民の対立の維持を推し進める動機に注目を喚起しながら、全力で陸海軍の軍備と闘い、この政策への金銭的支持を拒否するのが義務であると大会は考える。

大会は、武装した全市民を含め、防衛制度の民主的組織化は侵略戦争を不可能にし、諸国民間の対立を消滅させるのを助ける現実的保障であると考えてる。

戦争が起きる脅威にさらされた時に、関係諸国の労働者と彼らの議会への代表者は出来る限り最も有効であると彼らが考える諸手段に訴えて戦争が起きるのを回避し、⁽⁶⁶⁾しかしいったん起きた場合には速やかに終わらせることが義務である。」

この第 1 分科会 (委員会) の第 1 日目 (8 月 19 日) で議論の注目の的となったのはベーベルとエルヴェの激烈な論争であった。皮切りにベーベルが発言する。「私の意見では、社会主義インターナショナルの諸大会で今我々が議論する問題は解決済みです。だから我々は以前の諸決議をひとえに確認するだけであります (ドイツの席で「その通りだ」の声)。しかしフランスの仲間はエルヴェの反軍国主義の大騒ぎの後に新たに議事日程 *ordre du jour* として持ち出したいとの希望を表明しているので、我々は新しい論議に反対できません」⁽⁶⁷⁾と最初から逃げを打つ姿勢をしめした。そして、彼はもっぱらフランス側でも厄介者であるエルヴェの提案に矛先を向ける。フランスの党との真っ向からの議論を回避する作戦である。ベーベルは、すでにエルヴェと同趣旨のことを主張したオランダのドメラ・ニューエンホイス Domela NIEUWENHUIS の主張が 1892 年のブリュッセル大会で圧倒的多数で否決さ

(66) *Ibid.*, pp. 114-115

(67) *Ibid.*, p. 116

れている、と指摘する。共産党宣言の『プロレタリアートは祖国を持たない』という言葉を引き合いに出して、エルヴェは祖国が支配階級の祖国であり、祖国はプロレタリアートに利害関係を持たないと言うが、マルクスとエンゲルスの弟子たちはもはや『共産党宣言』の見解とは違っていると言明し、祖国は支配階級よりもプロレタリアートのものになっていると主張する。今日ではブルジョアジーの支配を維持する制度である議会に参入し、資本家階級の支配と闘うばかりではなく、諸条件を改良するために闘っている、否定するのに甘んじるのではなく、いたるところで積極的に成果を生み出していると言う。国民の文化と文明の発達、自由と独立と母国語の助けによってしか進化するまいとベーベルは主張する。外国の支配を受けている国民は国民の自由と独立のため戦っており、ポーランドを見れば分かる。アルザス-ロレーヌもフランスとの分離に反抗しているが、エルヴェはこの問題を無視しており、彼の思想は自国民からさえ峻拒されるであろう、と彼は言う。そして防衛戦争と侵略戦争の区別が難しいとするエルヴェの見解に反論して、賢明な政治家ならば戦争の大惨事の原因について、紛争に導き入れる導線を解きほぐすのは内閣の秘密政策が存在しなくなったので困難ではないと言う。エルヴェが推奨するゼネラル・ストライキと戦線逃亡と蜂起はドイツでは政府の弾圧を受けるので不可能である。そしてドイツ軍部やベルリンの参謀本部を見れば戦争支持勢力は未だ弱体で影響力を持たないし、ドイツの政府は社会主義運動をおそれて戦争をのぞんでいない。私が帝国議会で議論したビューロー大公 (宰相) は欧州大戦が国家と社会にもたらす結果を知っており、極力紛争を回避するであろうと予見した。こうした理由から「ヴァイアン-ジョレース決議」に賛成しないし、この決議の最後の文言 (「ゼネラル・ストライキ」と「蜂起」) はエルヴェへの大幅な譲歩であるとした。そして我々はモロッコ事件の間、戦争を回避するためにできる限りのことをしたと言う。さらに我々の組織の存続を危うくする闘争の方法を強制されるわけにはいかないので、一般討論が終了した後に小委員会 sous-⁽⁶⁸⁾commmission で合意にいたることを希望する、と発言した。

ベーベルはエルヴェが主張する反愛国主義が、国民という枠組みを否定し、プロレタリアが国民の枠組みの中で成長することを軽視し、他国から侵略された場合の防衛戦争を否定し、ひいては他国の従属化に置かれている被抑圧民族（彼はあえて自らもその併合に反対したアルザス－ロレーヌをこれに含めた）の自決権をも認めないことになる」と攻撃したのである。

エルヴェはベーベルに反論して次のように言った。私は我々の反軍国主義と反愛国主義キャンペーンの起源について言いたい。3 年この方、意味深い突発する大事件を我々は目撃した。ロシア革命が勝利したならばドイツ軍がポーランドを侵略するであろうという噂が流布し、ベーベルはこれに反対しようとしなかったのではないかという恐れを抱いた。人はモロッコ事件の際にはフランスはドイツの大砲を脅威に思い、1 か月の間戦争が起きると思った。あなた方が何もしないのを見て、我々はモロッコと資本家の利益を守るために進まないと声を大きくして叫んだ。我々は国際的大虐殺の場合、反軍国主義の問題が労働者インターナショナルの前に提示されていたかを検討した。民族の自立はあっても、あなた方は我々にこれらは階級国家に他ならないとしか言わなかった。祖国は少数派のブルジョアが多数派の労働者を富を産み出させる搾取に他ならない。祖国は母ではなく、継母であり、資本家の狼と労働者の羊を区別しなければならない。わが祖国はわが階級である。祖国のためにたがいに戦うことを我々はそのまなない。防衛戦争と侵略戦争の見極めはつかない。我々はナンシー大会でジョレース案の勝利に協力したのは事実である。あなた方は選挙での票と党費を集める機械となり、政府を恐れ、投獄を怖がってブルジョア化して口先だけの革命派となったとして、ドイツ社会民主党 SPD への不信感を表明し、激しく攻撃した。⁽⁶⁸⁾そして彼は「私はあなた方に質問したい。もし我々によって意気阻喪したフランス政府が国際的仲裁に訴えて、ドイツ参謀本部が拒否するならば、あなた方ドイツ社会民主党 SPD はどうするのですか。もしロシア革命を打ち負かすためにポーラン

(68) *Ibid.*, pp. 116-120

(69) *Ibid.*, pp. 121-123

ドを侵略したならば、あなた方はどうするのですか。我々の側の誰かたちがゲード教皇に『アーメン』と答えるように、あなた方があまりにバーベルに追従することを私は恐れます⁽⁷⁰⁾』と発言し、次々とバーベルとドイツ社会民主党 SPD への口を極めた攻撃を続ける。エルヴェ相次ぐ挑発的な言辞を、次の発言者であるベルギーの代表トロクレ TROCLET は軽くかわした。「発言による釣り言葉に我々は誘惑されません。私のようなベルギーの労働者は控えめに誘惑には良識で反論します。エルヴェは愛国主義を拒絶していますが、彼はそれから逃れられていいないのです。なぜなら彼はプロレタリアの愛国主義を暗に匂わせているからです。(略) エルヴェはより大きなヨーロッパ合衆国という祖国を言おうとしているのです。愛国主義はところで国境を拡大する問題でしょうか。エルヴェは祖国が地球かそれともほかの惑星か言明していません (笑い)」⁽⁷¹⁾「月かな? (笑い)」の野次がでた。発言者と会場はまともに取り合わない雰囲気であった。

翌20日の第2回会議ではヴァイアンが演壇に立って次のように言う。

「バーベルはエルヴェ案ばかりを論じて、『ヴァイアン-ジョレース案』の採決はドイツの党にとって有害というだけです。しかし我々は国際的成果への協力者であり、ドイツの社会主義者の行動に反対していません。バーベルは開会式の演説で指摘したようにドイツの社会主義が継続的に強化化しているというのであれば、行動でその強さを示すように確約させることをのぞみます⁽⁷²⁾」。オーストリアも普通選挙を勝ち取るためにゼネラル・ストライキを行い、フランスは統一によって政党も労働組合も力を強め、ロシアではゼネラル・ストライキでツァーリズムを頓挫させ、フランスでは日露戦争への非干渉を実現させ、モロッコ問題での独仏の紛争を阻止したとヴァイアンは例示する。国際社会主義はこうした関与できる力量を持っていないであろうか、と彼は問い、発言を続ける。ドイツ社会民主党 SPD は国際プロレタリ

(70) *Ibid.*, p. 124

(71) *Ibid.*, pp. 124-125

(72) *Ibid.*, pp. 126-127

アの偉大な義務を遂行する必要がある。国際紛争を防ぐ事前の行動を定めることが重要となっている。エルヴェの軍隊内部での蜂起は不必要な犠牲をもたらす。諸国民の精神的・物質的一体性は維持しなければならない。諸国民の国家を維持し防衛しながら戦争を阻止しなければならない。ある場合議会での行動で十分であるかもしれないが、ほかの状況ではより決定的な行動、すなわち紛争と戦争を阻止できる民衆の実力行動 agitation の様な行動様式まで行き着かなければならないと結論する。⁽⁷³⁾

つぎにヴァイアンを弁護してジョレースが発言する。ヴァイアンとは対立していたが今は和解し、ともに彼の決議を擁護することを我ら 2 人は託されている。和解は策略でも戦術でもなく、私はアムステルダム大会以来一貫してこの行動方針に忠実でありつづけている、と彼は言う。そしてエルヴェの説を時宜に適わないし、軍隊内ストライキは時代遅れであるとしてしりぞけ、さらにこう発言した。「資本主義の本質は戦争を生み出します。これは戦争の鉄則であります、社会主義インターナショナルは阻止することができます。⁽⁷⁴⁾」もしプロレタリアートが戦争を阻止することをためらったならば犯罪的ですらある、と彼は言う。バーベルは開会の演説で我らの一連の勝利について詳しく述べたが、こう言った後に我々が戦争に反対する行動に影響を行使できないというのは論外である、我々はあなた方に新しい手段を求めているのではなくプロレタリアートの政治と議会の力量を反軍国主義に利用するように求めている。しかし議会での行動はどの領域でもプロレタリアートにとって十分ではないので、普通選挙のために、ツァーリズムを打倒するために、プロレタリアートは自ら行動を起こすことをのぞんでいる、とジョレースは主張する。⁽⁷⁵⁾

そしてジョレースは続けて言う。バーベルは自党を政府の報復政策にさらすと反対するが、軽視できないので小委員会で実現可能で受け入れられる文

(73) *Ibid.*, pp. 127-130

(74) *Ibid.*, p. 133

(75) *Ibid.*, pp. 131-134

案を追求する用意が我々にはある。しかしあなた方はこの危険を多少大袈裟に言っているように思える。あなた方は普通選挙が脅かされたなら労働者は行動を起こし、我々が言っているのと同じようなことを行うとベーベルはドイツの大会で犠牲を覚悟であると明言している。カウツキーはドイツ軍による介入でロシア革命を鎮圧することを阻止すると言い、ベーベルも同じことをマンハイム大会で発言した。どうして国際紛争について同じことを言えないのかとジョレースは指摘した。⁽⁷⁶⁾

そして言う。「諸政府の言うことを言葉通り受け止めましょう！ 彼らは万国平和会議に集まりました。運命的なブルジョアの偽善から平和勢力にまると譲歩したと私は見ます。それらの政府はコメディーではなく仲裁について語ったのです！ 社会主義プロレタリアートはファショダとモロッコの戦争を仲裁によって阻止したのです。だから仲裁を平和の法としましょう。」⁽⁷⁷⁾

次に発言したドイツ社会民主党 SPD 右派のフォルマルはエルヴェを集中して激しく攻撃した。入獄する勇氣を持っているという彼の空威張りはまじめな会議の許容度を超えており、冗談であると言って良い。彼の言うことを議論し反論するのは時間の無駄であるとさえ断言する。そしてジョレースとヴァイアンはエルヴェの支持によってフランス社会党 SFIO ナンシー大会で彼らの決議案を採択させた同盟者である、とフォルマルは問題視した。さらに「ヴァイアン-ジョレース決議案」はドイツの党にとって受け入れがたい。しかし我々も軍国主義の危険との闘いを継続して行っていると弁明する。そしてフォルマルは続ける。ベーベルはこの決議案がもたらす危険について指摘し、ジョレースはベーベルが大袈裟に言っているというが、この問題についての決定的判断を長い間研究してきた我々に認めると言った。裁判中のカール・リープクネヒトの反軍的活動と理論については触れないと言いながら彼の理論はドイツの3回の大会で否決されたと述べた。そして軍隊内でのストライキで戦争を廃絶するという思想はゼネラル・ストライキで資

(76) *Ibid.*, p. 134

(77) *Ibid.*, p. 136

本主義を廃絶するという思想と同じほど狂気じみていると発言した。⁽⁷⁸⁾

翌日 8 月 21 日水曜日の第 3 回会議では、ジュデクム SÜDEKUM 議長は裁判中のカール・リープクネヒトから受け取ったフォルマルがこの大会で述べた自分の理論が大会で否決されたという指摘が正確でないので訂正する旨を記した覚書を公表した。

ヴァンデルヴェルドはエルヴェの排除をフランスの党にフォルマルが求めたことは嘆かわしい、我々はフォルマルのような右派も排除しないかわりにエルヴェのような左派も排除しないと発言した。彼によれば防衛戦争と侵略戦争の見分けは難しいが、トランスヴァール戦争（ボーア戦争）に対するイギリスの社会主義者の抗議や、日露戦争でのロシアの革命家によるロシア革命のように抗議の運動が起きれば、どちらが我々の側に立つかで容易に判明する。しかし武力で鎮圧されれば反動が勝利する。ゲードの決議案は正当防衛の原則には同意できるが、反軍国主義が問題の本質をそらさせるとするのは受け入れがたい、と彼は指摘した。そして彼はヴァイアン決議に賛成票を投じるという。だがドイツの党の反対があるので、戦争に反対する手段について列挙するのは全体一致を得るためには適當ではないと彼は主張した。⁽⁷⁹⁾

オーストリア代表のアドラーはヴァンデルヴェルドの意見に賛同し、ジョレースが諸政府を代表するハーグ会議に集まった代表は日露戦争がロシア革命を引き起こしたようなことを恐れていると言ったのは正当であると言った。そしてオーストリアの代表はゼネラル・ストライキを支持はしないが決定的な時機にはこれを退けるものではない。しかし我々はバーベルの決議案に賛成投票をするつもりだ。あまりに多く語ってほとんど行動しないのは間違っているからだ。国際プロレタリアートが一致できる決議をもとめる、と述べた。⁽⁸⁰⁾

(78) *Ibid.*, pp. 136-142

(79) *Ibid.*, pp. 144-145

(80) *Ibid.*, pp. 147, 149-150

次にポーランド代表のローザ・ルクセンブルクはヴァンデルヴェルドが開会式でロシア革命に賛辞を送ったが、このようなことをしなければ、革命への裏切りである。ロシア革命は日露戦争から生まれたばかりではなく、それを終結させたと述べた。そしてベーベルの提案を補強するために我々は提案した修正案を書き上げたと言った。⁽⁸¹⁾ここで言う我々とは彼女とレーニンとマルトフである。第2インターナショナル内部で新たな左派勢力が誕生したことが示されたのであった。

イギリス独立労働党のラッセル・スマート RUSSELL-SMART はエルヴェの提案には賛成できない、イギリスの政府は労働者の圧倒的多数の支持なしには戦争を行えないし、我々は議会と公共集会と街路での平和的行動で反対する、全人民武装 armement général はイギリスでは後退であり、ブルジョアジーは労働者の間に国民皆兵制度 service général を宣伝しているが、我々はこれらに反対であり「ベーベル決議案」にも「ヴァイアン-ジョレー⁽⁸²⁾ス決議案」にも賛成できないと主張する。

ここでベーベルは議論が出尽くしたとして討論を打ち切って、全体会議に提出する決議案を起草する小委員会を選出することを提案する。彼によれば紛争を起こす可能性のある6大国の2名の代表と調整役として小国を代表してヴァンデルヴェルドを含めた13名からこの小委員会を構成することを提案する。⁽⁸³⁾そのあとで軍備拡大に多くの予算を必要とし、戦争が起きれば動員される兵士には多くの社会主義者がいるし、ゼネラル・ストライキが行われれば、食糧の大部分を外国に依存しており、工業製品は輸出が不可能となり失業とかなりの価格騰貴と飢餓がおきるとベーベルは言う。ブルジョア社会の維持に大きな利害がある者たちは、彼らの生存基盤を危険にさらさないであろう。ひたすら戦争の阻止を宣言する社会主義を恐れる支配階級はヨーロッパの戦争を行い得ない。だからして開戦時に採るべき手段について争うべき

(81) *Ibid.*, pp. 152-155

(82) *Ibid.*, pp. 155-156

(83) *Ibid.*, p. 156

ではないと、ドイツの決議案は軍国主義と闘うためにあらゆる有益で有効な手段を明確に挙げている。事前に戦術を決めるべきではないと彼は主張⁽⁸⁴⁾した。

議長が小委員会を選ぼうとすると、デンマークのクヌーセン KNUDSEN からスカンディナヴィアの代表を加えてほしいとの要望があり、スイスのジーク SIGG は民兵制度が望ましくないと説明したいので参加したいとの求めがあり、ロシアのレーニンからはローザ・ルクセンブルクをロシアの代表にしたいと要請があった。かくして代表はスカンディナヴィアとスイスの代表⁽⁸⁵⁾を加えて15名で小委員会が構成されることとなった。小委員会委員の名をあげればドイツからベーベルとフォルマルが、フランスからジョレースとゲードが、イタリアからはフェリとコスタが、イギリスからラッセル・スマートとシュウ SCHEW が、オーストリアからはアドラーとスカトゥラ SKATULA が、ロシアからはローザ・ルクセンブルクとビストレニン BYSTRENINE が、さらにスカンディナヴィア代表としてブランティング BRANTING (後のスウェーデン社会民主党最初の首相) とスイスの代表ジークが、最後にベルギーの国際社会主義事務局 BSI 議長のヴァンデルヴェルドがその委員会のメンバーを構成した⁽⁸⁶⁾。イギリスのシュウとオーストリアのスカトゥラ、ロシアのビストレニン以外は各国を代表する有力な代表であった。

翌日の 8 月 22 日木曜日の第 1 分科会 (委員会) 第 4 回会議では、議長はベーベル決議案とヴァイアン決議案を折衷したレーニンとルクセンブルクとマルトフから受理した修正案を発表する⁽⁸⁷⁾。

その後スウェーデン代表のブランティングが演説を行い次のように言う。小国は軍事的に大きな力を持たない故に軍備を放棄する考えに容易にたどり

(84) *Ibid.*, pp. 160-163

(85) *Ibid.*, pp. 164-165

(86) *Ibid.*, pp. 164-165

(87) I - IV の 4 か条からなる文案は *Ibid.*, pp. 165-166 を見よ。

着き、経済的知的改善に専念できる。ノルウェーとデンマークはほかの党が受け入れた人民武装のかわりに完全非武装を求めているが、スウェーデンの状況は異なっている。我々はルクセンブルクの提案に従って若者が受け身の服従に甘んじることなく「市民」を構成する意識を持つように、若者の間でのプロパガンダを組織することを推奨する。また決議に仲裁に関する文言を入れることをのぞむ。政府の平和主義的言辞をまじめにとらえる必要はないが、ハーグ会議の招集と仲裁裁判所の設置は力を増す民主的運動の影響を証明するものであり、労働運動の平和主義的志向への歩み寄りであると彼は⁽⁸⁸⁾言う。

続いてイギリスの社会民主同盟 Social Democratic Federation の代表シューはイギリスの志願兵制度を民兵にかえることは後退であるとして人民武装の提案に反対し、青年を反軍国主義の思想の下で育てることこそ民主的改革であると主張し、ブランティングの見解に賛成すると発言した。ルーマニア代表ラコフスキ RAKOWSKI はドイツの党は国際社会主義の前進を十分に考慮していないと批判したが、フランスの決議案もすべての国には応用できないとして、より積極的な介入の必要性を説くルクセンブルクの修正案で補完されたドイツの決議案に賛成すると発言した。イタリア社会党の創立者の一人であるコスタはブルジョアが考える祖国と社会主義者のそれとはまったく違うと言い、軍国主義と闘うことは教権主義と闘い世俗教育を追求することも同様に逸脱ではなく社会主義運動の一部であると主張し、理論や原則ではなく紛争の際の具体的行動が重要である述べ「ヴァイアン-ジョレース決議案」を支持するが、しかし戦争を阻止する手段は各国の選択の自由にゆだねられるべきだと主張した。ノルウェーの代表イエペセン JEPPESEN はブランティングの意見に賛成し自分たちの綱領は完全非武装であり、これにそった宣言に投票するが、ほかについてはバーベル決議案に投票すると表明した。アルゼンチン代表ゴウデレフスキ GOUDELEWSKI は「ヴァイア

(88) *Ibid.*, pp. 168-178

ン-ジョレース決議案」に賛成であるが、戦争を阻止する手段だけでなく戦後の敗戦した諸国民の抑圧にも反対すると決議で明言するべきであると述べた。オランダ代表のローランド-ホルスト ROLAND-HOLST は、ルーマニア代表ラコフスキのようにルクセンブルクの修正案で訂正されたバーベル決議案に賛成すると態度表明した。アメリカの代表カー CARR はイギリス代表たちの意見に賛同し、人民武装ではなく全面軍縮を説き、ロシア代表ルバノヴィッチ ROUBANOVITCH (社会革命党) はルクセンブルクによって修正されたヴァイアン案を支持する演説をして議論の場は小委員会に移された。⁽⁸⁹⁾ 各国の意見は極めて多様であり各国の歴史的背景と社会主義諸政党の経験が反映されていたのである。

小委員会ではジョレースはバーベル決議案を基礎としながら、イギリス、アメリカ、スカンディナヴィアの支部の見解にしたがって修正し、反軍国主義的行動に適合する過去の大会で認められた実践的手段を提示した。オーストリアのアドラーは各国が同一の手段を採ることを義務とすることに反対し、状況に従った完全な行動の自由を主張した。バーベルは、同様に戦争の脅威が起きた場合、各国が最も有効であると思うことを行う完全な自由を主張した。ゲードはゼネラル・ストライキと蜂起が万能であると労働者階級に幻想を持たせることは重大な危機にさらすとした。フェリは反軍国主義的な実践的手段を示さなければプロレタリアートはひどく幻滅するとして、プロレタリアートが軍国主義と戦うのに必要な決定的力量を持っていると決議案に書き加えることを主張した。アドラーは出された意見をまとめた文案を読み上げたが、スイスのジークはスイスやスカンディナヴィアでは人民の武装は軍国主義への回帰であると異論を唱えた。バーベルは大国では人民武装は進歩であり、スイスでは士官が常にブルジョアで軍事組織が民主的でないと反論した。ジョレースは歴史的記憶と国際協調の必要性を受け入れたことを歓迎した。ブランティングからは人民武装が非武装への途であるとの理由が

(89) *Ibid.*, pp. 168-175

含まれていないことを指摘された。審議を終えて多数派は決議第2部の起草をジョレースが起草することを決定した。小委員会会議は決議案の最終的起草はヴァンデルヴェルド、アドラー、ジョレースの3者にゆだねることに⁽⁹⁰⁾した。

翌8月23日金曜日の第1委員会第5回会議では報告者のヴァンデルヴェルドから最終決議案が発表された。

最終的にこぎ着けた第1分科会（委員会）小委員会で決定された決議は、大会総会への報告者ヴァンデルヴェルド自身が認めるほどに異常に長い決議文となった。それはロシアのマルトフやレーニン、ポーランドのローザ・ルクセンブルクの機転でベーベル決議案の文面を出来るだけ残して、「ヴァイアン-ジョレース決議案」の主旨とつなぎ合わせようと工夫したせいであったと第2インターナショナル研究の第1人者オーブトは指摘する。⁽⁹¹⁾小委員会決議案の文面は以下の通りであった。

「大会はこれに先立つインターナショナル大会の軍国主義と帝国主義に反対する行動に関する諸決議を確認し、軍国主義に反対する行動は資本主義に反対する行動全体と分かťことは出来ないことを喚起する。

資本主義国間の戦争は一般にその世界市場をめぐる彼らの競争の結果である。なぜならば各国はその販路を確保しようとするだけでなく、主として外国の諸国民の隷属化と彼らの領地の略奪によってあらたな販路を獲得しようとするからである。

これらの戦争はブルジョアジー支配の主要な手段の一つであり、労働者階級の経済的・政治的隷属の主要な手段の一つである軍国主義の軍備が引き起こす休まない競争から生み出される。

戦争はプロレタリア大衆を彼らの階級の義務と国際的連帯の義務から迂回

(90) *Ibid.*, pp. 175-178

(91) HAUPT, Georges ; «Congrès de Stuttgart», dans *Histoire de la IIe Internationale. Congrès socialiste internationale. Stuttgart 6-24 août 1907*, Tome 16, Genève. Éditions Minkoff, 1985 p. 9, du même ; *Le congrès manqué. op. cit.*, pp. 25-26

させる支配階級の利益のため系統的に培われた国粋主義的偏見によって助長される。

戦争はそれゆえ資本主義の本質であり、資本主義制度の廃止によってしかやむことはない。あるいは軍事的技術の発展が求める人命と財産の犠牲の膨大さと軍備によって引き起こされる反乱が、この制度を放棄するように諸国民を追いやる時にしかやむことはない。

真っ先に戦闘要員を徴募され、物質的犠牲を主として被る労働者階級は、とりわけ戦争の当然の反対者である。なぜなら戦争は彼らが求める目的、すなわち社会主義的理念に基礎を置き現実に諸国民の連帯に導くように定められた新しい経済秩序の創造しようとする目的とは相容れないからである。

大会はそれゆえにブルジョア社会の階級性格と諸国民の対立を維持させる動機に注意を喚起しながら、陸海の軍備と全力で闘い、この政策に対する金銭的支持を拒否し、またプロレタリア青年を諸国民友愛の社会主義的理念の中で育て、体系的に階級意識を覚醒させるのはすべての労働者と彼らの議会への代表の義務である、と考える。

大会は常備軍制度に置き換えられる民兵制度という民主的組織の中に、侵略戦争を不可能にさせ、諸国の対立を消滅させるのを助ける現実的保障を見出す。

インターナショナルは、多様な諸国の政党が時間と状況に応じて必然的に多様となる行動を予め厳格な公式の中に閉じ込めてはならないが、しかしインターナショナルは軍国主義と戦争に反対する労働者階級の努力を出来るだけ強化し連携させる義務を持つ。

実際、ブリュッセル・インターナショナル大会以来、プロレタリアートは陸軍と海軍と植民地の軍事費の拒否によって、軍隊の民主化によって軍国主義に反対する闘争を追求し、有効性と効率性を強化させた非常に多様な手段に訴えて戦争を予防し、終止符を打ち、あるいは全社会階層に戦争によって広められる動揺を労働者階級の解放のために役立ててきた。かくしてとりわけファショダ危機の後にイギリス労働組合とフランス労働組合の協力によっ

て平和を保障し、フランスとイギリスの間の良好な関係を回復した。モロッコ危機においてはフランスとドイツの議会での社会党の行動があり、この目的のためにフランスとドイツの社会主義者によって示威行動が組織された。オーストリアとイタリア両国の紛争を予防するためにトリエステに結集した両国社会主義者の協調した行動があった。スウェーデン労働者階級によるノルウェーへの侵攻に反対する強力な介入があった。そして最後にツァーリズムによって開始された戦争を阻止し終止符を打ち、ロシア人民とプロレタリアートの自由を危機から湧き起こらせるためのロシアとポーランドの社会主義者・労働者農民の英雄的犠牲行為と大衆の闘争があった。それゆえこれらの努力は労働者階級の増大する力と彼らの精力的介入による平和を維持するための配慮を証明している。

労働者階級の行動は止むことがないプロパガンダが力強い尽力を行う気概を準備し、様々な国の政党がインターナショナルによってより強力に活気を与えられ協力関係を持つことによって一層有効となる。

大会はさらにプロレタリアートの圧力の下に国際的仲裁の真剣な実行がすべての係争においてブルジョア諸政府の不憚な試みに置き換わり、かくして軍備と戦争によって食い尽くされる精力と金銭の無尽蔵な資源を文明の進歩に割り当ててくれる全面軍縮の恩恵を諸国民に与えると確信する。

大会は次のように宣言する。

もし戦争が差し迫るならば関係諸国の労働者階級の義務は、行動と関係調整の力を持つ国際事務局の協力を得た彼らの議会代表の義務は、最も適切であると彼らと思うあらゆる手段で、階級闘争の深刻さと全般的政治情勢に従ってかわるであろう手段で戦争を阻止することである。

しかし戦争が起きた場合はすぐさま中断させるために介入し、戦争が生み出した経済的・政治的危機を彼らのすべての力で人民階級の最深部まで扇動し資本家支配の没落を促進するために利用することである。⁽⁹²⁾

イギリス独立労働党のラッセル・スモートから民兵制度について異議が出

されたが、オーストリアのアドラーはプロイセン式の常備軍がないイギリスなどの国は除外されるとの説明を受けて全会一致で「小委員会案」は可決された。⁽⁹³⁾

3. 第 6 回全体会議への第 1 委員会小委員会決議の報告

第 1 分科会（委員会）の全体会議への報告は 8 月 24 日土曜日の第 6 回全体会議で行われた。議長はドイツ社会民主党 SPD のジンガー がつとめ、会議の劈頭に報告者ヴァンデルヴェルドは決議文の異常な長さを弁解して次のように言う。

「この決議は最も長い決議文の一つであり、我がインターナショナルの諸大会で最長のものです。しかし我々はもっと短くする時間がありませんでした。短くしようと試みたところ、正確さを減じることに気が付きました。この決議は満場一致で採択されました。我がインターナショナルの基礎となっている基本的諸原則についての不一致があるので他にしようがありませんでした。」⁽⁹⁴⁾

さらにヴァンデルヴェルドは「これらの諸原則についてもう一度列举します。」⁽⁹⁵⁾と述べて以下のように諸原則について具体的に指摘した。第 1 は「万国の労働者よ、団結せよ」とマルクスが言ったように労働者の第 1 の義務は国際的連帯であるという。第 2 の原則はベーベルやヴァイアンが見事に定義したようにインターナショナルは独立した政府の下にある国民ばかりではなく、ポーランドやフィンランドのようなインターナショナルがその生存権を認めた国民という自律した諸国民 *nationalités autonomes* の存在を前提とする生きている諸国民の自由な連合であるという。その場合にも国際主義者の観点が必要とされるという。⁽⁹⁶⁾

(92) *VII^e Congrès Socialiste International tenu à Stuttgart. Compte rendu analytique.* *op. cit.*, pp. 179-182

(93) *Ibid.*, pp. 182-183

(94) *Ibid.*, pp. 385-386

(95) *Ibid.*, p. 386

この原則から導き出されるのは、諸国民の独立を脅かす侵略と攻撃に対する諸国民の正当な防衛は、諸政府の征服の危険を防ぐ保障となる国民防衛の手段となる民兵制度を組織化することでなされると主張する。しかしスイスの代表が反対するのはこの国ではブルジョアの士官が指揮を執る階級性格によるのであり、人民の士官に置き換えられなければならないと言う。⁽⁹⁷⁾

アメリカやイギリスでは国民皆兵制度がなく民兵制度は軍国主義の拡張となると彼らの代表は反対するが、この方法は義務兵役制度の国にのみ適用されるとヴァンデルヴェルドは答えた。そしてフランスのヴァイアン提案とドイツのバーベル提案が提出されていて、全力で戦争を予防し停止させることには一致していても、その手段について不一致が生じていると指摘する。前者はその手段を列挙するが後者はこれを拒否している。議会での取り組みや公衆の行動はまだしも、ゼネラル・ストライキや蜂起を明示すればドイツの党は政府の弾圧にさらされるとして反対するのである。一律の規則を提示する点で一致がみられないので、各国民は国際社会主義事務局の総括する行動の下に最も有効な手段を採用することを決めるにとどまったのである。これを補足するためにファショダ事件に際してのフランスとイギリスの労働者の連帯した反対運動や、トリエステをめぐる対立の際のイタリアの党とオーストリアの党の共同での抗議の集会や、日露戦争でのロシアの労働者の抗議する運動に端を発する蜂起ストライキや、モロッコ事件に直面した独仏労働者の抗議する運動などを例として決議文に列挙したとヴァンデルヴェルドは説明した。⁽⁹⁸⁾

すでに小委員会で決議される予定の「ヴァイアン－ジョレース決議案」と「バーベル決議案」を折衷させた決議案は通過の見通しが立っていたせい
か、ヴァンデルヴェルドの発言以外はこれとってこの決議案についての重
要な発言はなかった。しかし最後に議長のジンガーが全体一致での小委員会

(96) *Ibid.*, pp. 386-387

(97) *Ibid.*, pp. 386-388

(98) *Ibid.*, pp. 388-391

案の採択を求めると、フランスの極左派の代議員エルヴェは、ドイツとフランスの意見が根本的に食い違っているのに全体一致であるかのように言い繕っているとして異議をとる。しかし決議案が採択されるとエルヴェは机の上に立ち上がって両手をあげて賛成の意思表示をする。⁽⁹⁹⁾

小委員会の決議案が採択された後で、モルダヴィアとワラキアでの農民反乱に対する軍隊の流血の弾圧に抗議する「ルーマニアでの迫害についての決議」、1905年革命後に迫害されたロシアの革命家への亡命権を求めた「ロシアの革命家を支持する決議」、モロッコへのフランスとスペインのモロッコ植民地化の企図を断罪する「モロッコについての決議」、裁判にかけられ無罪放免されたアメリカ労働運動の急進的指導者ウィリアム・ヘイウッド William HAYWOOD を讃える「アメリカの鉱山労働者たちの裁判についての決議」⁽¹⁰⁰⁾ が全体一致で採択された。

最後に次回大会をコペンハーゲンで開催することを求める決議案がデンマークから提出され、1910年のインターナショナル大会はコペンハーゲンで開催されることが決められた。8月24日土曜日に開かれたこの第6回全体会議は最後の全体会議となったので、地元シュトゥットガルトならびに中央のドイツ社会民主党 SPD や国際社会主義事務局 BSI からなる大会開催主催者の労に感謝する意が国際社会主義事務局 BSI 議長のヴァンデルヴェルドとイギリスの社会民主連盟のハインドマン HYNDMAN、そしてハインドマンから労をねぎらう挨拶を受けた全体会議議長のジンガーから参加者と主催者に感謝の意が表明され大会は閉じられた。ドイツの社会主義者は「社会主義者行進曲 Sozialistenmarch」を、フランス社会党の代表は「インターナショナル Internationale」をイギリスとスラヴの代表は「赤旗 Drapeau Rouge」⁽¹⁰¹⁾ を合唱して会場を後にした。

6 回に及ぶ全体会議（第 1 回が翌日に延期されて第 2 回と呼ばれたので

(99) *Ibid.*, pp. 396-399

(100) *Ibid.*, pp. 399-402

(101) *Ibid.*, pp. 404-411

80 (9) 社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会 (1907年)
とフランス社会党第3回リモージュ大会 (1906年)・第4回ナンシ
ー大会 (1907年)の歴史的考察 (2・完) (横山謙一)

全体会議の回数⁽¹⁰²⁾は5回か)ではこの会議で審議された第1分科会(委員会)での「軍国主義と国際紛争」以外に第2分科会(委員会)「労働組合と政党の関係 Les relations entre les Syndicats et le Parti」や第3分科会(委員会)「植民地問題」、第4分科会(委員会)「移出民と移入民」、第5分科会(委員会)での「女性の参政権 Le suffrage des Femmes」と併せて5つの分科会(委員会)の5つの決議案が採択された。決議案がまとまり次第全体会議にかけられて議決されたために順不同となり、20日火曜日の第2回全体会議でインターナショナル大会と国際社会主義事務局 BSI の規則 règlement と列国社会主義議員委員会会議の規約 statut が審議・採択され、21日水曜日の第3日には第3分科会(委員会)の「植民地問題」が審議されたが、激論が戦わされて翌日に持ち越され、22日木曜日第4回全体会議では「植民地問題」決議案と「女性の参政権」が審議・採決された。23日金曜日の第5回全体会議では「労働組合と政党の関係」と「移出民と移入民」の決議案が採決され、以上で述べた通り最終日24日土曜日には「軍国主義と国際紛争」の小委員会案⁽¹⁰³⁾が審議・採択された。

他の全体会議で特筆すべきことは、第3分科会(委員会)で採択された「植民地問題」の植民地での改革を求め、さらには社会主義樹立後でも改善された植民地の存続をみとめた決議案は主にドイツ社会民主党 SPD 主流派の反対で覆され、植民地は現地民を収奪と隷属をもたらしている体制であり、大国主義列強間の対立と戦争をもたらすと断罪する新たな決議案が採択されたことである。またこの分科会(委員会)でイギリスの社会民主連盟のハリー(ヘンリー)・クエルチ Harry (Henry) QUELCH がハーグ国際平和

(102) 8月19日の第1回全体会議は翌日に延期されたが、第1回全体会議の開会式の議事日程を第1回全体会議と見なしたかもしれない。しかし議事録の目次には第1回全体会議の項目は見あたらない。Ibid., p. 437

(103) Ibid., pp. 437-439

(104) この決議案を採択させた主力となったのはドイツ社会民主党 SPD 左派のレデブール LEDEBOUR である。彼はやがて第1次大戦が始まると党主流派と袂を分かちドイツ独立社会民主党の中心的指導者となる。

会議への参加者が行っているのは「盗賊の夕食 thieves' super」であると発言したことを問題視したヴェルテンベルク王国内務省が彼を大会の途中で国外追放した事件⁽¹⁰⁵⁾が起きて大きな反響を呼んだ。

第 2 分科会（委員会）の「政党と労働組合の関係」についての決議はこの大会では大きな議論を呼ぶことは無かったが、次回コペンハーゲン大会ではチェコの労働組合に関するオーストリアとチェコの党代表の間での激論の際に重大な論点になる。この決議では「社会党の活動がとりわけプロレタリアートの政治闘争の領域で行われるのに対し、労働組合の活動は主に労働者階級の経済闘争の領域で行われる。(略) プロレタリアの闘争は労働組合と政党の関係が労働組合運動の関係が必要な統一を危うくせずにより緊密になれるほどうまく行き実りが多い。(略) 政党と労働組合は精神的に両者の努力を互いに助け合い、支え合うべきであり、両者がおこなう闘争においてたがい⁽¹⁰⁶⁾にひたすらプロレタリアートの解放を助ける手段として役立つべきである」と両者の関係を定義している。この決議は政党に認められている民族ごとの組織を労働組合にも認めさせようとするチェコの党に反論して、労働組合の国際的連帯を強調して政党のような民族別の組織を否定する際にオーストリア社会民主党によって論拠として用いられたが、厳密に読めば必ずしもその論拠とはならないように思える。

最後に——結びとして

シュトゥットガルト大会でジョレースがヴァイアンとともに提案した戦争の脅威が差し迫った場合に国際的協調の下にゼネラル・ストライキと労働者の蜂起で戦争を阻止する行動を提起した「ヴァイアン-ジョレース決議」は、歴史的脈絡を考慮しなければ極端な手段であったとの評価を受けるかも

(105) この事件はこの大会での参加者の発言を内務省の臨席監視をおこなう警察官が検閲を行っていたことを物語る。議事録には内務省の名前の国外追放命令書が記載されている。いまだドイツ社会民主党 SPD は厳しい監視下におかれていたのである。

(106) 決議の全文は *VIIe Congrès Socialiste International tenu à Stuttgart. op. cit.*, pp. 424-425 を見よ。

しれない。しかし国際社会主義事務局 BSI のイニシアティブによる国際的一致協力のもとで、すなわち交戦国となりうる国どうしで同時的に実行するとの条件を満たした場合に行いうる非常事態での行動であったし、こうした極端な抗議行動以外に当時戦争を阻止する手段が存在したかと考えることは難しかったであろう。西欧諸国でさえも「ミルラン入閣」のような唯一の個人の入閣という例外的事例を除けば政府権力を未だ掌握していなかった社会主義インターナショナルに世界大戦の阻止のために出来ることは、おそらく他になかったのである。また目前に差し迫っていた世界大戦がもたらした犠牲者数を考慮すれば正当化できた手段であったかも知れない。なによりドイツとオーストリアなどの三国同盟国とフランス、イギリス、ロシアの協商国の一触即発の緊張関係が相次いでいた時代背景を考慮すべきである。そして次の社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会でジョレースが支持した「ケア・ハーディー・ヴァイアン決議」には、国際的仲裁をもとめる方法として軍需産業部門でのゼネラル・ストライキと民衆の実力行使という行動をとることを提唱した。さらに国際仲裁裁判所の仲裁に従わなかった側を侵略国と認定するとした。

「ヴァイアン-ジョレース決議」も「ケア・ハーディー・ヴァイアン決議案」も当時のドイツ社会民主党 SPD から戦争を阻止する手段としては認められなかったけれど、第2インターナショナルのドイツ社会民主党 SPD から「常備軍制度に置き換えられる民兵制度という民主的組織」として全人民武装を実現する民兵制度という軍事組織は支持を受けていた。結局「ヴァイアン-ジョレース決議案」も社会主義インターナショナル・ウィーン大会で審議が予定されていた「ケア・ハーディー・ヴァイアン決議」も第1次世界大戦⁽¹⁰⁷⁾の勃発によって「失われた大会 *congrès manqué*」すなわち「幻の大会」となって日の目を見ることはなかった。仮に「ヴァイアン-ジョレース決議案」や「ケア・ハーディー・ヴァイアン決議案」が社会主義インターナシヨナ

(107) HAUPT, Georges ;, *Le congrès manqué. op. cit.* の書名を引用した。

ル大会で可決されていたとしても、第 1 次世界大戦の開戦に直面して有効な行動をとることが可能であったかを推察するならば、ドイツとオーストリアならびにフランスとイギリスの党組織間の相互不信の根深さや不協和音から見て多くの障害が横たわっていたことは想像に難くない。また世界大戦前夜にドイツやオーストリアの様な強権の政府が強硬な手段に訴えるか訴えようとした場合、果たして両国の党組織は解体を覚悟の上で反戦平和の姿勢を貫くことができたかという大きな問題が残る。第 1 次世界大戦が始まり、開戦を目前にしたオーストリア社会民主党党首アドラーの混乱と狼狽ぶりは国際社会主義事務局会議事録に克明に⁽¹⁰⁸⁾残されている。第 2 インターナショナルの多くの支部が合意していた常備軍に代わって侵略戦争を不可能にするための民兵制度を実現する可能性についていえば、ドイツやフランスの様な当時の大国でこの民主的軍制度を実施することも同様に困難な目標であった。

110年を経て、社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会の議論と決議は現代においていかなる意味を持つか、戦争を阻止しようとする努力はどのような意義があるかを今日的視点から考察を試みたい。第 1 次世界大戦を阻止することが出来なかったと言う意味では、第 2 インターナショナルの努力は失敗と挫折の歴史であった。第 2 インターナショナルのような国際的な労働者階級を代表する機関が、ゼネラル・ストライキを含む手段と方法で戦争を阻止するという行動をと構想したことは、今日の西欧社会や先進国の社会から見て想像を超える事態であった。

シュトゥットガルト大会が開催された1907年という時点は、第 1 次世界大戦を目前に控えたベルエポック（良き時代）と呼ばれた時代で、今日の国際政治と国際関係の構図とはまったく違っていたことを確認しておかなければならない。国際連合や国際連盟のような国際平和維持のための国際的機関は存在しなかった。この当時の価値体系は資本対労働を基軸として対決の図式が作られ、秘密外交も大手を振ってまかり通っていて、これに対する批判も社

(108) *Compte rendu de la Réunion du BSI tenu à Bruxelles les 29-30 juillet 1914. Séance du Mercredi Matin, 29 juillet.* cité par *Ibid.*, pp. 252-253

会主義運動の中からようやく生まれ始めていた時代であった。第1次世界大戦中に秘密外交の禁止や無賠償・無併合の講和を主張する理想主義的政策はアメリカ大統領ウィルソンとレーニンによって受け継がれる。女性の地位向上を求める運動は1907年の社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会とともに開催した第1回国際女性社会主義会議に始まり、コペンハーゲン大会時には第2回大会が開催されて「国際女性デー」が定められ国際的広がりを持って行った時代であり、女性の参政権と地位向上を求める運動も世界大戦を阻止しようとする反戦平和の運動も国際的社会主義運動抜きには考えられない時代であった。第1次世界大戦前夜の「ベルエボック」(良き時代の意)の時代はヨーロッパでは社会的階級が政治的立場を明確に色分けしていた。特に資本家階級と労働者階級の二大階級が社会の政治的経済的分野での基軸として存在していた。社会主義者がブルジョア階級あるいは資本家階級と呼んだ富裕階級の政党は保守主義や自由主義あるいはキリスト教政党などが存在したが、これらの「名望家政党」は、当時唯一の「大衆政党」であった労働者階級によって立つ社会主義政党とは一線を画していた。欧米では労働者階級に対しては社会主義や社会民主主義を標榜した政党が大きな影響を持った。勿論農民の人口が未だ多くの割合を占める国も多かったし、農民政党や中小企業や農民など小生産者を基盤とした政党も存在したが、資本対労働という基本的基軸と枠組みは変わらなかった。当時まだ環境保護を第一義的政策として志向する政党はまだ存在しなかった。第2インターナショナルの時代は西欧先進国では地方政治レベルでは自治体を社会主義者が議会の多数派を占めていた例は少なくなかったが、中央の政権与党になった例はなかった。資本家=経営者などの富裕階級と当時十分な富の再配分にあずかれていなかった労働者階級を比較すれば両階級の経済的力量の差は政治的力量と同じく大きかった。政治過程についての国民が入手することが出来た情報も、秘密外交によって大きく制限されていた。

ジャン・ジョレースが掲げたフランス革命の精神を継承する「自由・平等・博愛」と啓蒙主義・合理主義・人類愛の立場から侵略戦争に反対する立

場をはじめとする第 2 インターナショナルの思想と運動は、この頃からようやく労働者階級を中心に広範な影響力を持つにいたった。しかしジョレースが構想した「新しい軍隊」すなわち民兵制度によって侵略戦争を不可能にする試みは歴史的伝統を持つ兵役制度として以前から実施されていたスイス以外ではこの後も実現されなかった。他方で第 2 インターナショナルのシュトゥットガルト大会とコペンハーゲン大会では、戦争を不可能とする手段として北欧のいくつかの社会民主主義政党は完全非武装を主張していた。コペンハーゲン大会では、侵略戦争か防衛のための戦争かを見分ける基準を国際的仲裁、特に国際仲裁裁判所による仲裁を受け入れるか否かとした決議を採択した。第 2 インターナショナルの時代の平和主義運動あるいは反戦平和運動は第 1 次世界大戦という既存の世界観・価値観を根底から揺るがせた残酷な総力戦・長期戦の時代を経験する前の時代のものであったが、ジョレースら当時の多くの社会主義者は世界大戦がもたらすことになる悲惨な結果をすでに予見して戦争を阻止することを第一義の目標に掲げていた。たとい敗北と挫折の歴史であったとしても 1,000 万人以上を殺戮することになる世界大

(109) しかし第 1 次大戦中にドイツやフランスの社会民主主義政党が自国の戦争に協力すると、戦争に反対した国際主義者のツィンマーヴァルト左派は第 2 インターナショナルの指導者たちの世界大戦への負担を非難した。第 1 次世界大戦は熱狂的愛国主義が当初ヨーロッパの交戦国を飲み込んだが、この戦争が当初予想されていなかった長期戦になると、厭戦の潮流が諸国民の間にうまれ、大殺戮を目撃した人類は世界大戦が生みだした社会の政治経済的・精神文化的破綻に直面した。第 2 インターナショナルは分裂し、戦争に反対したツィンマーヴァルト左派のボルシェヴィキは 1917 年にロシアでボルシェヴィキ革命をおこしロシア・ソヴィエト社会主義共和国が誕生した。ボルシェヴィキの主導の下に 1919 年に第 3 インターナショナル=共産主義インターナショナル(コミンテルン)が誕生すると、ボルシェヴィキ政権は樹立直後にドイツ帝国など中央同盟国との即時講和を結び、連合国(協商国)側の西部戦線に危機が生じたが、フォッシュ將軍のドイツ軍への反撃とアメリカの参戦で辛うじて敗戦を免れ、ドイツ革命が起きて連合国側は戦勝国となり、ヴェルサイユ講和条約が結ばれる。しかしウィルソン米大統領がのぞんだ無併合でもましてや無賠償でもなかった第 1 次世界大戦の講和条約は、特にドイツの賠償問題は国際的危機を生む禍根を生みだした。そして両大戦間の「危機の 20 年」の歳月を隔ててもう一度の世界大戦が人類の上に襲いかかり、前大戦をしのぐ戦禍を世界的規模でもたらした。第 1 次世界大戦後に国際連盟の創立やロカルノ条約と不戦

戦を阻止しようとする大きな勢力・社会集団が存在し、懸命な努力をした歴史は人類に希望を残した。⁽¹⁰⁹⁾

第1次世界大戦前夜の戦争の脅威に立ち向かった第2インターナショナルのシュトゥットガルト大会以降の努力は、110年の歳月を隔てて見るとき、世界大戦への螳螂の斧の抵抗のようにしか人々の目には映らないかもしれない。しかしどの時代でもどこに行き着くのか歴史の結末を知らずに、人類は歴史の抗しがたい潮流のなかで行動してきた。現代世界において平和を維持しようとする努力を続ける国際連合の安全保障体制の下でも自国の利害を優先させる大国の国際政治ゲームや大国の代理戦争や宗教的・民族的・イデオ

条約などあまたの戦争を回避し阻止するための努力が行われたがいずれも功を奏することはなかった。

思えば両大戦間期のブリアン外交を担ったブリアン BRIAND はジョレースのかつての盟友で社会主義インターナショナル・アムステルダム大会まで社会主義インターナショナルの指導者の一人であった。第1次世界大戦前夜まで反戦平和運動に命を賭し大戦直前の1914年7月31日に暗殺されたジャン・ジョレースの行動と思想は多くの社会主義者・元社会主義者に影響を与えた。彼から影響を受けた政治家には、後に「ブラニスト (ネオ・ソシアリスト、分裂後の正式政党名「フランス社会党-ジャン・ジョレース連合 Parti Socialiste de France-Union Jean Jaurès」)」に加わった暗殺の時点までジョレースと行動をともにしたルノーデルから、ジョレース死後に継承者となった、後の人民戦線内閣首相レオン・ブルムや中間派のジャン・ロンゲ、コミンテルンに失望してやがて共産党を離党するフランス共産党初代書記長フロッサール FROSSARD、アメデ・デュノア Amédée DUNOIS、共産党でレジスタンスを戦ったダニエル・ルヌー Daniel RENOULT、社会党を離党して首相になったジョレース暗殺事件の弁護士ポール・ボンクール PAUL-BONCOURT、ジョレースとともに「ユマニテ Humanité」紙を創刊した第1次世界大戦開戦時の首相ヴィヴィアニ VIVIANI、第4共和政初代大統領ヴァンサン・オリオール Vincent AURIOL にいたる多士済々がいた。

ファシズムの隆盛とヒトラー政権の樹立によって国際連盟のもとでの平和維持の政策が行き詰まった後で、コミンテルン第8回大会で「人民戦線戦術」が提唱されるが、フランスとスペインにおいて実現した人民連合 (人民戦線) 政府も「スペイン不干渉政策」とフランス人民連合ブルム内閣の後を受けたダラディエ内閣がヒトラーと締結した「ミュンヘン協定」の宥和政策によって潰える。そして第2次世界大戦はソヴィエト連邦と西側世界対ファシズムとナチズムのイデオロギー対立の戦争となり、戦勝国となったソヴィエト連邦と西側世界との間で戦後世界においてあらたな形をとった戦争、すなわち冷戦に継続される。ソヴィエト連邦が崩壊して冷戦体制が終焉したいま世界は戦争の危機から自由になることはなかった。

ロギー的な問題に起因する地域紛争によって、冷戦体制の終了後も大規模な戦争の脅威は地上から姿を消してはいない。第 1 次世界大戦前夜の第 2 インターナショナルの戦争に抗する努力は、現代までおそらくは西欧社会の社会主義・社会民主主義勢力に限らず反戦平和と社会的公平をのぞむ勢力と運動の思想の原点となっており、その挫折と失敗の歴史を含めた歴史的分析の意義が汲み尽くされたとは未だもって言い切れない。(了)

